

一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会  
2021年度 第4回定例理事会議事録要旨

日 時：2021年7月20日（火）18：00～20：30

場 所：神戸ポートピアホテル 南館 B1F トパーズ

現地出席：理事長：比企直樹

副理事長：福島亮治

監 事：倉田なおみ、花崎和弘

理 事：飯島正平、石井良昌、遠藤陽子、尾花和子、小谷穰治、斎藤恵子、佐々木雅也、  
清水孝宏、高増哲也、千葉正博、中瀬 一、鍋谷圭宏、丸山道生、三原千恵、  
室井延之、森みさ子、山中英治、鷺澤尚宏

ZOOM出席：理 事：犬飼道雄、大石英人、小山 諭、鈴木 裕、名徳倫明

監 事：田妻 進

事務局幹事：櫻谷美貴子、新原正大

欠 席 者：特任顧問：平井敏弘、平田公一

監 事：土岐祐一郎

理 事：祖父江和哉

記 録：瀧田実隆（事務局）

（敬称略：五十音順）

議 題：

I. 理事長挨拶

はじめに、第36回学術集会をハイブリッド開催決定は、COVID-19による危機的な社会状況を踏まえた苦渋の選択であったが、開催に向けてご尽力いただいた鍋谷会長に対して謝辞が述べられた。また新理事会を立ち上げるにあたり、「理事全員に働いて頂くこと」「透明性の高い運営を目指すこと」「学問が出来る環境の提供」「簡潔な会議」を目標に運営を進めており日頃の協力に感謝が述べられた。定款第5章第29条に則り、2021年度第4回定例理事会を開催することが宣言された。議長は理事長が務め、議事録署名は定款第33条に則り理事長と出席した監事（倉田なおみ、田妻 進、花崎和弘 各監事）となることが確認された。

II. 前回、前々回理事会議事録の確認について

前回・前々回理事会議事録案が承認され、議事録署名手続きに入ることが報告された。

III. 庶務報告について

事務局幹事より2021年6月30日時点の会員動向について、報告された。

■2021年6月30日現在 ※宛先不明43名含む、退会・休会除く

会員種別	2021年3月31日	2021年6月30日	増減
名誉会長	2名	2名	±0名
名誉会員	43名	43名	±0名
特別会員	64名	64名	±0名
代議員	250名	250名	±0名
学術評議員(代議員は除く)	498名	499名	+1名
正会員	21,411名	21,942名	+531名
寄贈会員	8名	8名	±0名
総数	22,276名	22,808名	+532名

■職種別

医師	4,737名	管理栄養士	6,398名	言語聴覚士	624名
歯科医師	449名	栄養士	57名	歯科衛生士	119名
看護師	4,168名	臨床検査技師	670名	診療放射線技師	4名
准看護師	2名	理学療法士	473名	その他	658名
薬剤師	4,318名	作業療法士	131名	合計	22,808名

■2021年分会費納入率 ※宛先不明・退会・自動退会含む

会員種別	納入者数	未納者数	納入率
代議員	235名	15名	94.00%
学術評議員	458名	41名	91.78%
正会員	18,842名	3,100名	85.87%
総数	19,535名	3,156名	86.09%

IV. 2021年度 会計中間報告

尾花財務委員長より、2021年3月31日現在の会計報告がされた。会員数の増加により正会員の会費収入が予算の75%を上回ったことが述べられた。

V. 2021年度 総会・学術評議員会について

COVID-19拡大の現状を踏まえ、2021年度総会・学術評議員会は現地開催を行わず、Microsoft Formsを使ったメール審議方法を利用することが報告された。

VI. 第36回学術集会（JSPEN 2021）について

鍋谷会長から今回のハイブリッド開催の実現にあたり、これまでご協力いただいた理事会の先生方に対して謝辞が述べられた。また、ハイブリッド開催に伴う参加費未入金の問題について報告があった。今回は通達後1週間以内に入金がない場合は参加・発表の業績として認めないことが承認された。本方針は、来年以降も公示文に明記し対応することになった。

VII. 各種委員会・部会・WT・WG・PT 審議事項

総務委員会（飯島理事）

- ・会員管理システム改修に伴う収納代行業者の変更について  
現行システムで利用している収納代行業者では入金確認処理までの課題も多く、コスト高であることから、新会員管理システムとの連携もしやすく、課題の解消できるよりコスト削減となる収納代行業者に変更することが承認された。

代議員・学術評議員選考委員会（大石理事）

- ・代議員（新規・再任）申請および理事会推薦代議員申請について  
本年は代議員の新規・再任申請年となるため、理事会推薦代議員申請の手続きとともに申請要項について承認された。理事会推薦代議員の申請期間は、通常の代議員申請期間と区別し、2021年10月1日から31日までとすることになった。
- ・学術評議員申請について  
今期の学術評議員の申請公示および申請書類案が提出され、承認された。
- ・代議員選出規則の変更について  
代議員選出規則規定を現委員会名と整合も含め現在の運用に基づき変更することが承認された。

- ・学術評議員選考規則（案）について  
規約委員会にて審議された学術評議員選考規則が提出され、承認された。

#### 規約委員会（石井理事）

- ・定款施行細則 第9章 第25条の変更について  
現行定款 定款施行細則 第9章 第25条において、新委員会構成との整合のため、資料に基づき変更することが承認された。

#### 将来構想委員会（鍋谷理事）

- ・第39回以降の年次学術集会における開催について  
第37回・第38回の日程変更を受け、第39回以降も感染対策を考慮した開催時期について協議された。会計年度、定時社員総会、他学会の時期の点から現時点で2月からの変更は見送る考えが示された。さらに今後の主流になると思われるハイブリット型の開催により、従来の開催選択基準を見直す必要性も示され、学術集会実践支援委員会と検討していくことになった。

#### 学術集会実践支援委員会（犬飼理事）

- ・第38回学術集会日程変更について  
第38回学術集会会期を COVID-19 の継続的な影響も考慮し、「2023年5月9日(火)～10日(水)+11日(木)各種セミナー」に変更することが承認された。
- ・第39回以降の年次学術集会における開催日について  
第39回学術集会の会期については、本委員会および将来構想委員会からの理事会審議も経て、定款や会計年度など、従来の学会の事業予定に戻すことを前提とし、一旦、当初予定の「2024年2月29日(木)～3月2日(土)各種セミナー」にて準備を進めることになった。

#### 倫理・利益相反委員会（鷲澤理事）

- ・各施設の臨床研究倫理的配慮の学会定義について  
臨床研究倫理的配慮における学会の「施設」定義は、定款上の懲戒手続きの対象ではないため、発生時に対応を協議する審査方針が確認された。また、倫理審査は施設に任せることを原則とするが、困難な場合は倫理審査委員会で審査対応(年4回)とする。審査料は継続審議となった。
- ・論文・学会発表取消し判断の J-STAGE 対応について  
施設の倫理審査を通していない事例があり、今後の対応が確認された。学会発表は、J-STAGE にも掲載され、取り下げ手続きは、当該事務局への申し入れとともに学会ウェブサイトでも無効を表明し、e-journal「学会誌 JSPEN」に正式なコメントを掲載する手続きが承認された。
- ・対象者の学会出席やクレジットの制限について  
発表後に演題取り下げになった演者のクレジットについて、学術集会への出席記録は制限されないが、発表におけるクレジット記録等は制限することで承認された。
- ・学会発表者施設からの演題取り下げ希望について  
2021年4月に鳥取大学医学部附属病院薬剤部から第35回学術集会会長宛に演題取り下げの依頼があったため、資料に基づいた対応とすることで承認された。
- ・新倫理指針について  
現在の倫理指針で対応が可能か、また従来のカテゴリー分類などの定めでよいか、匿名加

- 工情報・非識別加工情報におけるオプトアウトについて、協議していることが紹介された。
- ・その他について  
利益相反は個人に帰属するため、利益相反の範囲、事前の倫理審査を受けることへの啓発を学会ウェブサイトを通じて進めることが確認された。

#### 支部統括委員会（三原理事）

- ・オフィス・テイクワン（以下、OTO）委託業務：支部学術集会 Webinar 配信方式について  
今期運営委託した OTO より予算に応じた Webinar 配信方式の提案があったが、当初契約どおりセミナー部分と一般口演部分で 2 つの Webinar を設置した方式で実施することで確認した。
- ・オフィス・テイクワン業務委託契約の締結と支部学術集会の赤字補填対応について  
業務委託契約書の締結に向け顧問弁護士と進めた。見積額と乖離せず赤字にしない運営を定めたが、一部の支部で赤字が想定された。委託を削ると WEB 開催できない部分もあり、見積書に付記する対応が承認された。他支部も事業計画書と会計報告を精査の上、支援する。

#### 国際委員会 nutritionDay 担当（鷲澤理事）

- ・第 1 回オンライン会議に基づく今後の活動について  
nutritionDay の会員周知について検討した。年次学術集会でのセッションや他企画と併せることや提示物（登録施設数や前年のナショナルデータ）や配布物を作成し、来場者に周知するなどの案が出て引き続き検討していくことが確認された。

#### 保険委員会（鈴木理事）

- ・輸液製剤協議会からの学会としての意見書提出依頼について
  - 1) 臨床栄養領域における輸液製剤の必要性に関する学会意見書の提出について  
輸液製剤は、臨床栄養療法に欠かすことのできない医薬品であるが、不採算に陥っている品目があるため、当学会要望書を 2 年ごとの改定毎に提出し、何らかの製品が配慮されてきた。今回も要望に対応し、特段の配慮を希望する意見書を学会から提出することが承認された。
  - 2) 臨床栄養領域における（日局）塩化ナトリウムの必要性について  
（日局）塩化ナトリウム製剤は採算性などの問題で、製造販売メーカーも限られ、新規設備投資も厳しく安定供給に支障を来している。臨床栄養法に必要な本製剤が安定供給を確保することに対して、特段の配慮を希望する意見書を本学会より提出することが承認された。

#### 認定・資格制度委員会（福島副理事長）

- ・NST 専門療法士認定制度：認定教育施設における 40 時間臨床実地修練について  
制度設立当時から修練環境から変遷している実態を踏まえ、資料に基づき将来見据え適応する安定した制度への変更案が示され、承認された。
  - 認定教育施設の事前届け出制とし、カリキュラムの提出を求める。
  - 研修修了時に指導責任者の全体報告と参加者の修練報告をまとめ、学会本部へ提出する。
  - 修了証発行はこの報告に基づいて、理事長名で行う。
  - 制度移行に伴い、現行の症例報告書等の内容を変更し、効率化を図る。

- ・ 実地修練のオンライン研修の代替内容について  
臨床実地修練のオンライン化について認定教育施設から問合せや陳情があったことを受けて、本学会より厚生労働省保険局医療課へ問い合わせしたところ、「現状“臨床実地修練”は認定施設での実地での研修を想定しており、これまでもオンラインでの実地修練を認めたことはない」との見解であった。加えて、臨地研修のオンライン導入に関しては、「学会として認める実施内容をオンラインで質の担保が可能な手法で決めていただくのであれば、省内で確認判断したい」との回答を得たため、質の担保の観点から、修練カリキュラムのどの部分がオンラインで代替可能かを検討した。オンライン化は、座学要素の強い講義部分を除くと現実的ではなく、講義部分の置き換えが妥当との考えに基づき、過去の実態に基づき調査・分析を行った。本委員会で協議し、「講義」に限定したオンライン化は上限 15～16 時間以内もしくは 40%以内であれば可能という案が提出され、理事会でも承認された。

#### **NST 委員会（中瀬理事）**

- ・ 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会における NST フォーラムについて  
第 37 回学術集会時の NST フォーラムのテーマ、司会の選定方針案が示され確認された。
- ・ NST 稼働認定施設関連  
NST 委員会ウェブサイトより引き継いだデータに基づき、将来的に恒常的で整合性のとれたシステムの構築を目指す。特に NST 継続報告に相当する施設情報の定期的な登録方法の確立が急務のため、施設情報の詳細化や検索性の向上を目的にシステムを構築することが確認された。
- ・ NST 稼働施設申請における症例レポートについて  
症例レポートの提出は施設の書式に委ねているため、認定作業の際に煩雑になっている。委員会にてチェックシートの提案があり、具体的な項目について検討し、理事会へ提出することが確認された。
- ・ 2021 年の NST 稼働施設新規・更新申請スケジュールについて  
2021 年の申請・審査スケジュールが示され承認された。  
申請期間：2021 年 10 月 1 日(金)～10 月 31 日(日)（当日消印有効：期間厳守）  
予備審査：2021 年 11 月上旬、委員会審査：2021 年 11 月下旬

#### **編集委員会（鍋谷理事）**

- ・ 本学会著作物に対する転載許諾申請について  
これまで総務委員会にて審議を行っていた、ウェブサイトを含む本学会著作物に対する転載許諾申請について、今後は編集委員会での審議とすることが承認された。
- ・ 編集委員会推薦論文について  
編集委員会委員が、学術集会演題の中から学会誌への掲載を薦められる演題を推薦できるシステム案が提案され、承認された。
- ・ 投稿規定の改訂について  
論文投稿時にコントリビューションの記載を求める案と、著者情報を筆頭著者に加えて指導者の連絡先も明記する案が出され、どちらも承認された。投稿規程の修正案については、後日持ち回りで審議することとした。

### XIII. 各種委員会・部会・WT・WG・PT 報告事項

#### 総務委員会（飯島理事）

- ・休会者数報告（昨年度と今年度の比較）  
昨年度と今年度（6月30日時点）の休会者数の比較について報告された。
- ・休会運用変更に伴う定款施行細則変更について  
2020年度第3回定例理事会にて、休会運用の変更が承認された。第1章第4条と現在の運用と乖離しているため、後日規約委員会による審議の上、持ち回りで再審議することを報告された。
- ・ウェブサイト新規・更新実務の運用変更について  
本学会ウェブサイトの管理について、全ての業務を制作会社に委託していたが、経費や作業効率の面から修正や更新に関わる一部業務を事務局にて担当することしたことを報告された。

#### 将来構想委員会 JSPEN-U45（鍋谷理事）

- ・JSPEN-U45 活動報告  
これからの JSPEN の発展に必要な「未来創造プロジェクト」と、エビデンスの創出を目指した「研究」を柱として活動していることが報告された。また第36回学術集会では JSPEN-U45 座談会のセッションを設けてサポートしていることを報告された。

#### 支部統括委員会（三原理事）

- ・各支部学術集会の進捗状況について  
資料に基づき、各支部学術集会の進捗状況について報告された。
- ・オフィス・テイクワンの業務委託契約について  
支部学術集会運営のパッケージ化を目的に4支部の支部学術集会の運営委託をオフィス・テイクワンに委託したことを報告された。

#### 国際委員会 nutritionDay 担当（鷲澤理事）

- ・第1回オンライン会議報告について  
資料に基づき、第1回オンライン会議の内容を確認された。特に ICU の登録を推進するため、JSPEN 連絡網を用い多施設共同研究の形式で2023年第38回学会学術集会での発表を目指していることを報告された。

#### 教育委員会（千葉理事）

- ・2021年度 NST 専門療法士必須セミナーについて  
昨年に引き続き e-learning 形式で第1回 NST 専門療法士受験必須セミナーを6月1日～7月31日で開始した。一部の確認テストでの誤記・誤設定が認められ、今後は教育委員会で相互確認を行うこととした。来年も学術集会期間中の開催が難しい場合には、オンライン開催を考慮する。
- ・JSPEN 栄養マスターコース、NST ベーシックコースについて  
JSPEN 栄養マスターコース、NST ベーシックコースは、今後は臨床栄養代謝専門療法士認定資格を念頭に入れたカリキュラムの再構築を検討していることが報告された。
- ・職能別3部会アドバンスコースについて  
上記セミナー同様に臨床栄養代謝専門療法士認定資格を念頭に入れたアドバンスコースの開催について3部会と協力して進める。

#### 教育委員会 新医師・歯科医師セミナーWG（小山理事）

- ・NST 医師・歯科医師教育セミナー開催報告について  
2021年6月5日、6日にて、NST 医師・歯科医師教育セミナーをオンラインで開催した。  
セミナー受講者は275名であった。明らかに出席の条件を確実に満たしていないと判断した4名には、受講修了を認めず、修了証の発行を取りやめた。

#### 教育委員会 薬剤師部会（室井理事）

- ・2021年度第2回薬剤師部会オンライン会議について  
6月9日（水）18:00～19:30にZOOMにて開催し、本学会新組織体制、薬剤師部会の組織構成の確認と今後の活動について協議した。
- ・2021年度第3回薬剤師部会オンライン会議について  
6月24日（木）18:00～19:00にZOOMにて開催し、ハイブリッド開催に伴う、第36回学術集会会期中の日病薬研修シールの配布方法について検討を行った。

#### 編集委員会（鍋谷理事）

- ・「学会誌 JSPEN」刊行状況について  
2021年刊行のVol.3の刊行状況について報告がされた。
- ・「学会誌 JSPEN」掲載状況について  
Vol.3 No.1～3までの掲載状況について報告がされた。
- ・「学会誌 JSPEN」論文投稿状況について  
月毎の新規投稿数、修正投稿数、新規投稿数と修正投稿数の合計について報告がされた。
- ・「学会誌 JSPEN」採択状況について  
2019年・2020年・2021年現時点まで期間の採択率が54%であることが報告された。
- ・「学会誌 JSPEN」投稿募集チラシについて  
「学会誌 JSPEN」投稿論文促進のために、編集委員会にて投稿の募集チラシを作成し、第36回学術集会参加者に対して配布することとした。また、同一のデザインのポスターも作成し、会場に掲示する。

#### AWARD 選考委員会（山中理事）

- ・若手研究者対象 AWARD について  
2021年の若手研究者対象 AWARD について見直しを行ったことが報告された。
  - ① YOUNG INVESTIGATOR AWARD  
YOUNG INVESTIGATOR AWARD については、ニュートリー（株）がスポンサーの形で継続することになった。また、以前から全職種の会員が対象であるが、このことを募集要項に追記することとした。
  - ② YOUNG DOCTOR AWARD  
スポンサー企業（クリニコ）の意向で医師の会員のみを対象とした AWARD であったが、2018年の AWARD 改変でスポンサー継続を辞退された。この数年申請も極めて少ない状況が続いていること。学会主催で特定職種だけを対象は公平性に欠けるため、今年から本 AWARD を廃止し、若手研究者対象 AWARD を「YOUNG INVESTIGATOR AWARD」に統一することになった。

#### AWARD 選考委員会 フェローシップ賞選考 WG（三原理事）

- ・JSPEN2021 のフェローシップ賞の選考方法について  
第36回学術集会では演題公募に際して本賞への応募を希望した6題より抄録にて5名を

選考し、応募者セッションにて発表いただく。なお、COVID-19 拡大の状況を鑑み、応募者セッションはWEBを併用したハイブリッド形式にて行うことが報告された。

- ・ JSPEN2020 におけるフェローシップ賞受賞者の副賞授与について  
第36回学術集会では、フェローシップ賞授賞式は行わず、お名前を発表し、後ほど事務局より賞状と記念品を送付する。JSPEN2020 における受賞者は、授賞式の記録（写真など）の機会がないため、JSPEN2021 フェローシップ賞受賞者のお名前公表時に併せて行うことが報告された。

#### **ガイドライン委員会（小谷理事）**

- ・ 前回理事会以降の活動報告について  
前回理事会（2021年5月20日）以降の活動について以下の報告がされた。
  - 1) がんの栄養療法ガイドライン作成WGの会議報告
  - 2) Minds で行うCQと推奨の作成  
Minds に則って作成する候補CQが提示され選定理由が報告された。
  - 3) Narrative による推奨の作成  
現在、いくつかのテーマは完成し、相互査読を行う段階にあることが報告された。

#### **臨床栄養コンセンサス検討委員会（犬飼理事）**

- ・ 現在の活動状況について  
がん領域のコンセンサス本の発行に向け、委員会にてデルファイと執筆確認を進めていることが報告された。

#### **臨床研究委員会/P 003：誤接続防止対策プロジェクト（丸山理事）**

- ・ 厚生労働省班研究に関して  
資料に基づき、令和3年度厚生労働科学特別研究事業：経腸栄養分野の小口径コネクタ製品の切替えに係る課題把握及び対応策立案に向けた研究の概要と進捗について報告された。

#### **■2021年度 第5回定例理事会の予定**

第5回定例理事会：2021年11月25日（木）16：00～19：00（東京駅周辺：ハイブリット形式）

以 上

2021年7月20日（火）